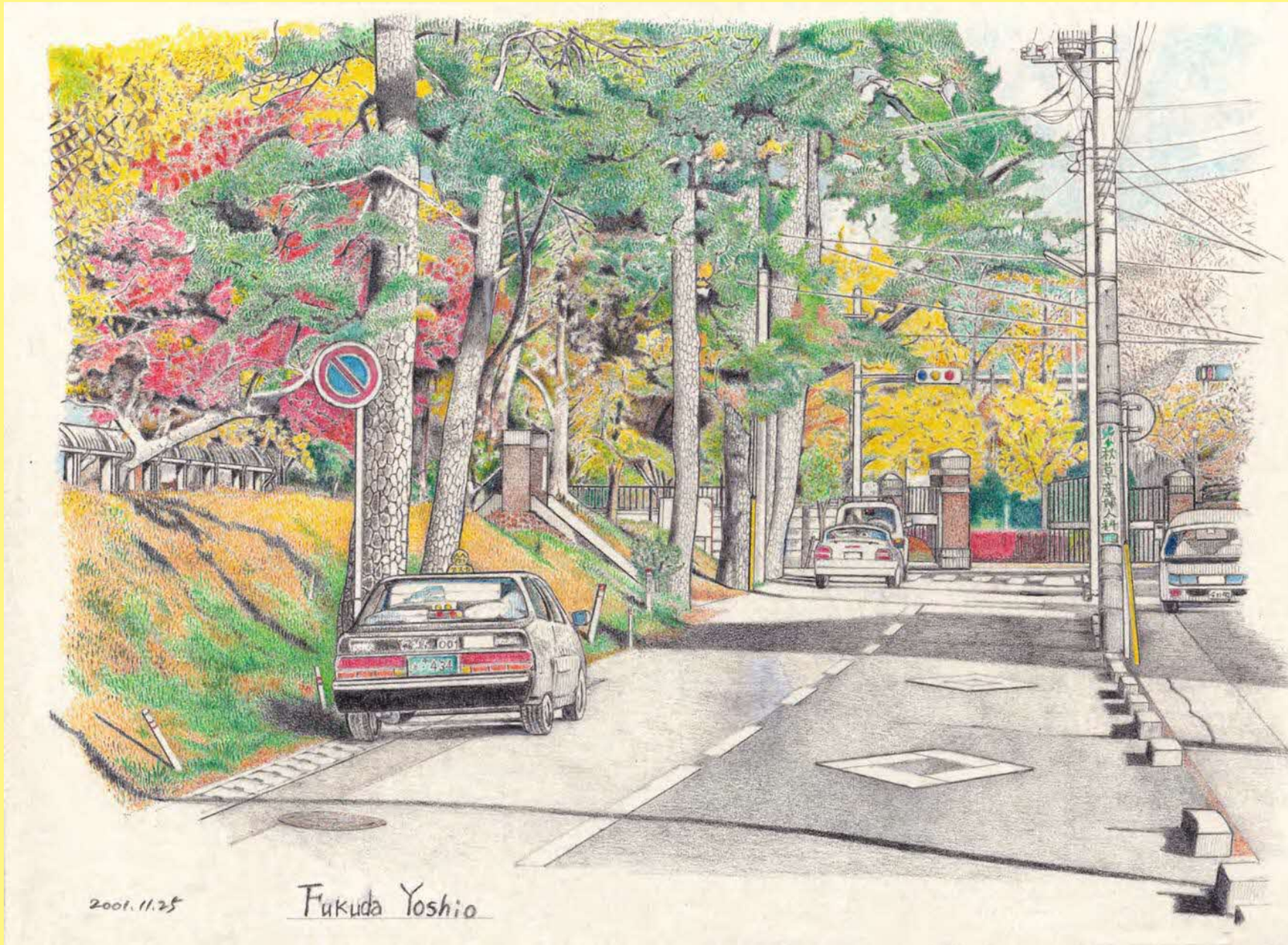
まちの記憶

色鉛筆で描いた四街道

絵・文 福田芳生



Dramatic Yotsukaido

四街道市

まちの記憶

色鉛筆で描いた四街道

絵・文 福田芳生

四街道市

はじめに

「日常こそ、ドラマチック」をテーマに、四街道の暮らしを見つめ、等身大のまちの姿を発信するドラマチック四街道プロジェクト。映像や写真、市民へのインタビューなどを通じて四街道市の当たり前の風景やそれを形づくる人々を紹介してきました。

まちの記憶は、四街道市内のかつての風景と、その場所にちなんだエピソードを添えたコラムです。

四街道市に生まれ育ち、その地で 70 年以上暮らしている画家の福田芳生氏が、写真とそれにまつわる記憶をたどりながら描いた色鉛筆画とテキストで綴ります。

本誌を手にとり、みなさんそれぞれの胸にある「記憶」のページをめくりながら、このまちの再発見につなげていただけたら幸いです。

四街道市

各ページに色鉛筆画で描かれた場所が参照できる QR コードを付しました。
スマートフォンなどの端末で読み取ってご覧ください。

四街道を描く

私は色鉛筆画家の福田芳生（ふくだよしお）です。1941 年 4 月 3 日生まれですから、満 79 才になります。四街道生まれの、四街道育ちです。

小学生の頃から絵が好きでした。ノートの余白に植物や動物を描いものです。

成人して県衛生研究所に職を得ました。毎日が電子顕微鏡の白黒写真の解読です。研究室の外に目を向けると、滴るような緑の輝きにハッとしたものです「あー、早く色彩の世界に入って四街道で活躍したい」というのが私の本心でした。

その為でしょうか、私は自転車で自分の居住する四街道市内を隈なく走り、カメラで街の風景を撮っていました。定年退職後、写真を基に風景画を描くのだと決めていたからです。でも、油彩にするか、水彩にするか迷っていました。

ある日、兄からもらった色鉛筆画を眺めていた時です。「そうだ、四街道の街を色鉛筆で描いたら、素晴らしいじゃないか」と気付いたのです。退職して、いざ色鉛筆画を始めてみると、構図で苦労するし、全く自分の思うような色が出ません。いろいろ試してみました。アメリカ製の色鉛筆は、美しい色彩が画面に溢れてきます。以来、この色鉛筆を愛用するようになりました。

四街道の街を描いていると、人を知り、街の歴史を知ります。松並木の近くにある赤レンガ製の門柱を見ていると、75 年前の四街道は軍都だったことを知ります。こうして描いた作品は 250 点近くになります。これらの作品を見た市民の方々から、ぜひ画集にして家族で見ることができたらどんなに素晴らしいか、四街道を遠くの知人に紹介する資料にしたいという声が多数寄せられました。

この冊子では、市民の要望に応えてこれまでの作品から 32 点を厳選しました。「あー、ここは姿を消したな」と、人口の増加と共に変貌していく街の姿を知るでしょう。

哀調を帯びた四街道の色鉛筆画は、見る者に郷愁を呼び起こし、そこに郷土愛が生まれてきます。これは絵による四街道讃歌と申せましょう。私は生ある限り、色鉛筆画を続けようと、心に固く誓っています。みなさん、次の画集をご期待ください。

福田芳生

和良比踏切際の
青いトタン塀

1998 年頃の様子

図左の和良比踏切際、右側の道路沿いにあった青いトタン塀は、椎名さん宅の外壁だ。ドブ板の上の落葉を掃くのに苦労したという。椎名さんは、土地を売却して他に転じた。2016 年に家は完全に取り壊され、跡地に丈の高い平成のモダンな住宅が並んだ。
青いトタン塀の絵を市民ギャラリーに展示したところ、来場した椎名さんの奥さんが大感激で、その夜夢に見たという。翌日、ご主人と一緒に訪れ、よく私の家を描いてくれたと、涙を浮かべて礼を言われた。このトタン塀の前で、子どもが自転車の練習をしたという。倒れそうになると塀に手をついたのだろう。図左の錆びた鉄柵は、金網のフェンスに変わった。

四街道市民の
通い慣れた道

2000 年頃の様子

図中央にブルーのノッポビルが見える。これは婦人専用のアパートだという。その先は、JR 四街道駅北口に向かう大通り。道沿いの赤い幟はピーナッツやさん「豆ひで」。右手前の片岡鳥獣店は、2004 年 4 月に取り壊され、現在駐車場になっている。中央の道を手前に進むと、津之守通りに出る。正面に花島薬局が見えてきたものだ。この薬局は 2015 年春に閉店し、間もなく取り壊された。地元の人にとって、懐かしい通りだ。

畑の小道と森

2006 年頃の様子

四街道警察署、わろうべの里に至る大きな坂道の途中、左側に畑の中を走る小道が目に入る。毎年 5 月から 6 月にかけて、ウツギが満開になる。図中央奥の白い花がそれだ。 その背後にある森は、昔日の和良比山の様子を今に伝えている。畑の土手には、白いツバナの穂が見える。子どもの頃、このツバナを摘んで食べたものだ。あまり味がしなかった。森の右側にある物置は、戦前からあった。懐かしい和良比の原風景だ。

和良比の
漢方薬局と民家

2004 年頃の様子

JR 四街道駅南口から前方を眺めると、和泉内科に向かう大きな坂道がある。右側の小さな坂道を下ると、正面に民家が見えてくる。手前は「わらび漢方薬局」。この薬局は 2010 年頃閉店し、2011 年 9 月に「アイワ薬局」として再開した。
毎年 5 月になると垣根のバラが一斉に開花する。実に美しい眺めだ。

小名木川の
遠田橋と山梨小

2006 年頃の様子

日本の 6 月上旬は野山の緑が最も美しい頃。小名木川を挟んで、図右側の森は鹿渡地区、左は山梨地区になる。図の奥に遠田橋、そして山梨小学校がチラリと顔を覗かせている。
川面には水草が繁茂し、いつまでも眺めていたくなるような、心和む風景だ。
川の垂直な壁をカミソリ護岸と呼ぶ。ひとたび川に落ちると、這い上がることは不可能だった。そのため、全国各地で不幸な事故が起こった。
そんな水難事故を防ぐため、川の両岸を固める石垣は傾斜を緩くし、子どもや犬が落ちても、すぐ這い上がれるように改良された。川岸の小道は市民の散歩道として、愛されている。

崖の上に残る昭和の家

2006 年頃の様子

四街道 2 丁目 13 番付近の住宅街左側は、切り立った崖になっている。
市の地震対策によって、頑丈な護岸工事が実施された。
この高台に建つ赤い屋根の家が一際目を引く。それは 1933 年に建てられたものだ。四街道の市街地では残り少ない戦前の家だ。そこのご主人は、中学校の校長だった。竹馬の達人として全国的にも有名だ。今も自作の竹トンボを近所の子どもたちに配り、人気を博している。

見る方向によって建物の形が変わる バーバーヤナギサワ

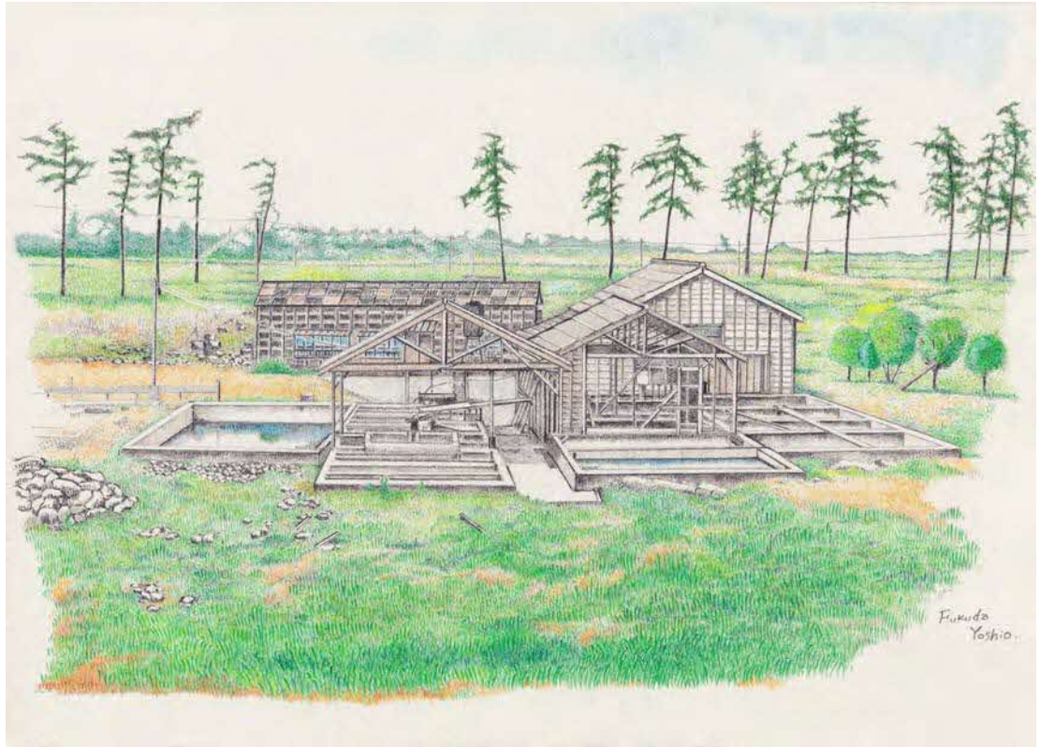
2006 年頃の様子

和良比にあるバーバーヤナギサワの建物。1962 年に、丈の高いピンク色の建物が完成し、営業を始め現在に至る。建物の色は当時の大工さんが決めたという。
左側の道を奥に進むと四和小学校の横に出る。四和小学校側から眺めると、ピンクの建物は直角三角形に見える。実に面白い造形だ。
図中央の道を手前に進むとヤックス、D2 に向かう大通りにぶつかる。

千代田の鯉のぼり

2019 年頃の様子

千代田 3 丁目 39 番に大きな調整池がある。そこは市民の憩いの場になっていて、池の周囲に遊歩道がある。
毎年 4 月から 5 月中旬にかけて、100 匹もの鯉のぼりが池の上を泳いだ。これは千代田市民有志会・千代田花壇愛好会の方々が、ボートを操って池の上にワイヤーロープを渡し、鯉のぼりを上げたものだ。なかなかの重労働で苦労したが、もう 20 年近くそれをやってきたという。
佐倉市や近隣の住民が、その季節になると大勢見物に来た。特に子どもたちが大喜びで「ワー、鯉のぼりだ」と歓声を上げる。それが大きな励みになったという。



四街道町に澱粉工場があった頃

1953 年頃の様子

大日五差路の近くに、かつて栗原澱粉工場があった。現在の焼肉店「赤門」の真向かいに当たる。図は 1953 年 5 月頃の工場の様子。
澱粉はパンに混ぜられ、増量材として、また、お菓子の原料として使用された。食料事情が好転すると、使用料が減じ、工場は閉鎖に追い込まれた。すりおろしたイモから澱粉を得るための沈殿池はそのまま保存され、恰好のプールとしてまちの子どもたちに開放された。

吉岡十字路近くの蔵の図書館

2018 年頃の様子

蔵の図書館。吉岡十字路の千葉市寄りにあたる吉岡 49 番地にある。岡田家の蔵を改造して、図書館にした。蔵は築 130 年ほどになるという。2017 年春に開館。子どもたちの遊びや勉強の場になっている。蔵の正面に江戸時代の消防ポンプ竜吐水が掛かっている。大きな鉄釜は、当時の生活の様子を物語っている。図書館は月 4 回ほど開館している。絵はアジサイの時期。緑が最も美しい頃だ。

たろやまの郷

2019 年頃の様子

栗山の香取神社から栗山小学校への道筋に、たろやまの郷がある。入口に看板があるので、誰でもすぐ分かるようになっている。階段を下って山林を抜けると、広い水田に出る。さあ、たろやまの郷だ。そこには懐かしい自然が数多く残っている。

四季折々の草花が美を競い、昆虫やカエル、小鳥、カヤネズミたちが暮らす楽園だ。2015 年に開園して以来、市内の 6 団体で「たろやま会」を結成し、地権者のご理解のもと、草刈りや動植物の保護に取り組んでいる。2019 年には、たろやま会により、ガイドブック『たろやまのさとみっけ』が刊行された。

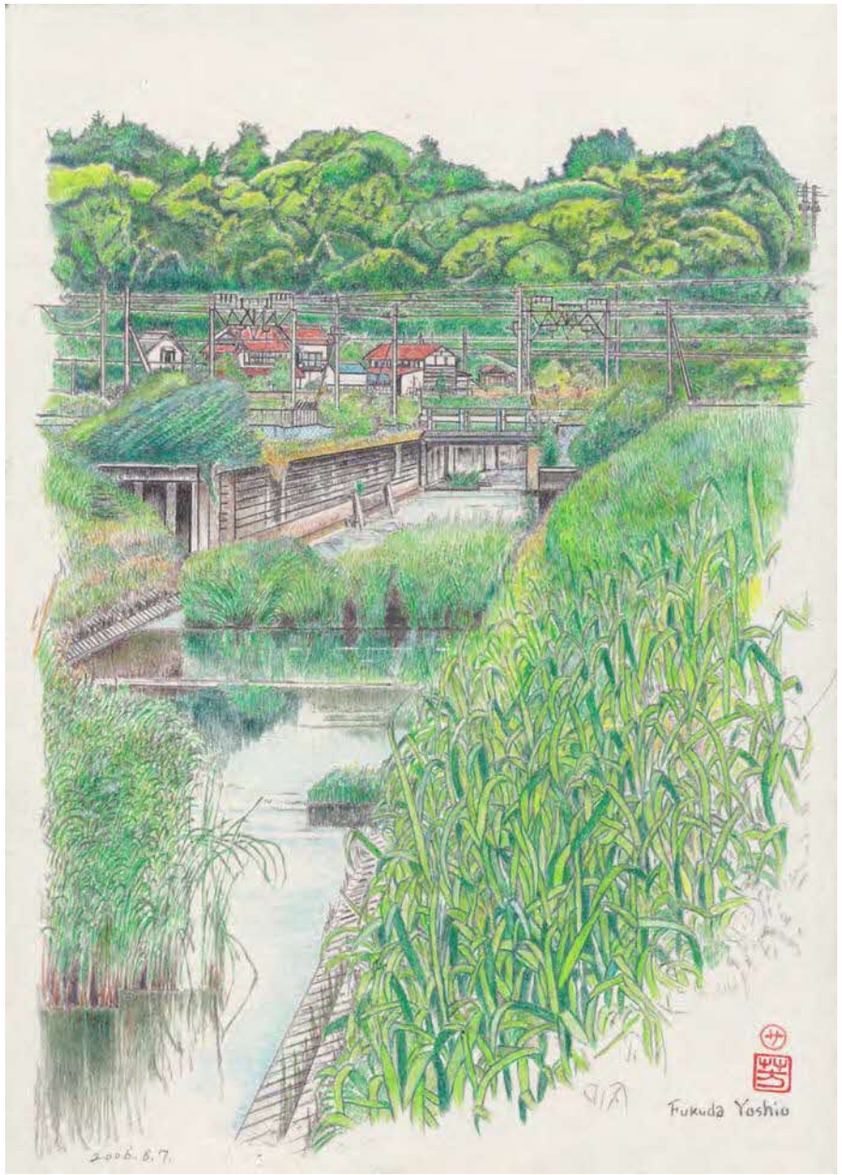
貴重な動植物が、写真やイラストで紹介されている。この冊子を携えて、たろやまの郷へ出掛けてごらんなさい。

図は 5 月末、夕日に染まるたろやまの郷。水田が鏡のようだ。

四街道警察署裏手の
古い農家と畑

2001 年頃の様子

畑の正面に瓦屋根の古い農家と納屋が見える。この家は、今から 80 年以上も昔のものだ。この農家の背後にある丈の高い木立や竹やぶは、すべて姿を消し、平成の家が壁のように立ちはだかっている。
畑では、落花生、トウモロコシ、トマト、キュウリなどが栽培されている。土の質が良いのだろう。図左手に貸し農園がある。
この一画は、まるで戦前の農村にタイムスリップしたような感じだ。この風景がいつまでも残ることを祈っている。



川岸に夏草が生い茂る小名木川

2006 年頃の様子

四街道の風景を描く際、小名木川は省くことのできない重要なポイントだ。JR 四街道駅から成田方面に向かうと、車窓遥かに長岡地区の赤い屋根の農家が見えてくる。地名は新潟の長岡藩の人たちが、この地に移住してきたことにちなんでいる。手前は小名木川。カミソリ護岸から、緩やかな斜面が主流になったことが分かる。季節が夏に近づくにつれ、川岸に草が繁茂し、緑一色になる。この長岡地区は、ウォーキングコースとして人気が高い。

JR 四街道駅北口近くの商店街

2006 年頃の様子

四街道十字路に向かう大通りの右側にスーパーさかい、福島製菓店のビルが軒を連ねている。福島製菓店の 2 階には、長谷川麻酔科医院があった。現在、保育園の事務所になっている。スーパーさかいはゲームセンターに変身したが、2018 年に入って閉店。2020 年 4 月に取り壊しが始まった。図手前の赤い幟はよっちゃんラーメン店。サラリーマンにとって良い食事処だった。これも今はない。福島製菓店は、唯一往時と変わらぬ姿で営業している。四街道の歴史を語るとき、見落とすことのできない店だ。

洋館と
ブルーのノッポビル 1 階入口付近

2011 年頃の様子

JR 四街道駅北口の大通り。図正面の道を左側に進むと、四街道十字路にぶつかる。大通り沿いの路地を挟んで、木立に囲まれた洋館とブルーのノッポビルがある。
洋館に隣接する岡本青果店では、いつもネコが台の上で昼寝をしていたものだ。市民が、この店で漬物を買っていた。この店も 2011 年頃閉店した。岡本青果店前の道を奥に向かうと、津之守通りに出る。この津之守通りの店も大分少なくなった。

元佐原信金前にあった歩道橋

2002 年頃の様子

1962 年、現在のイトーヨーカドーの近くに、初めて鉄筋 2 階建ての四街道中学校が完成した。それまで、陸軍野戦重砲兵第 4 連隊の薄暗い兵舎で、学ばなければならなかった。生徒たちの喜びは大変なものだったろう。
まちの発展とともに、交通量が増し、生徒の安全を考えて、佐原信金（現在のトヨタレンタカー）前から、中学校正門に達する歩道橋が設置された。学校が和良比に移転したため、2005 年 2 月末に撤去された。懐かしい風景が消えていくのは淋しいことだ。図の右端に私（福田）の自転車がある。

四街道の地名発祥の地にあった
エノキの大木

2005 年頃の様子

四街道という地名発祥の地。図は千葉街道と船橋街道の交差点にあったエノキの大木。樹齢 200 年以上という。佐倉藩の殿様が、参勤交代の折、このエノキの下で休息したといわれている。
長い間、四街道の発展を見守ってきたが、幹が空洞化して、いつ倒れるか心配だったので、2013 年 5 月中旬ついに切り倒された。ちなみに、県立四街道高校のバッジはこのエノキの葉を組み合わせたものだ。この事実は意外に知られていない。

消え去った昭和の家

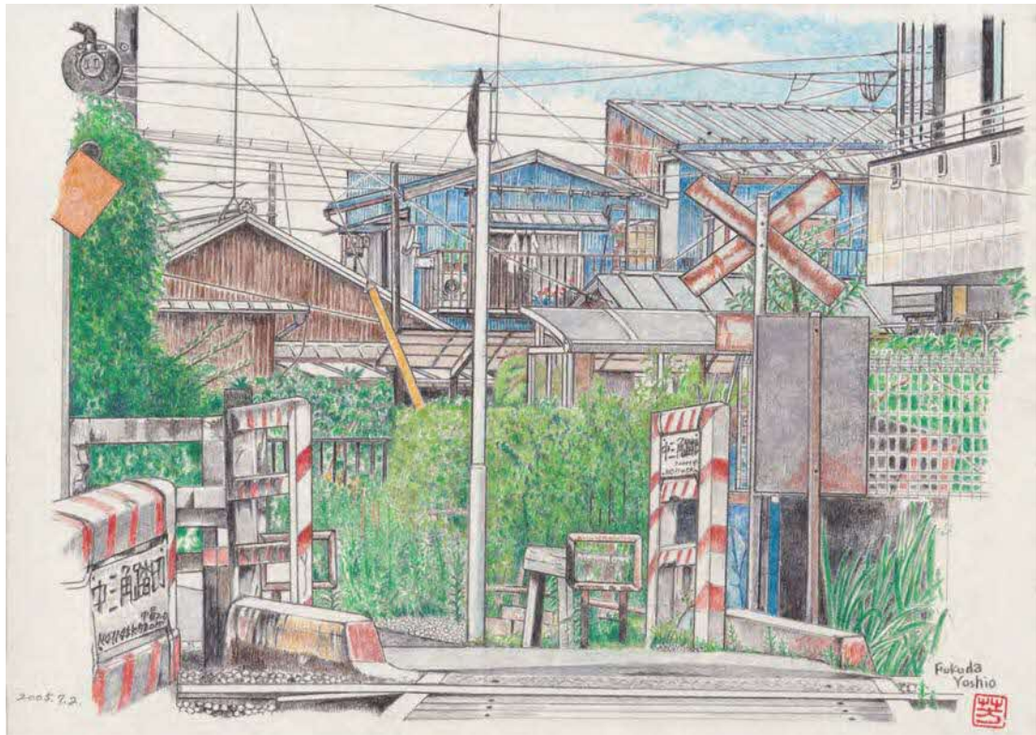
2005 年頃の様子

津の守通りの総合医薬品店ウエルシアの反対側、四街道公民館への道筋にあった戦前の民家。戦時中の防空法の名残か、屋根が黒く塗られていて、当時の面影を色濃く残していた。
玄関のひさしは緩い弧を描く。それは戦前の建物の特徴だ。濃い緑に囲まれた昭和の家も、2019 年 2 月末、ついに取り壊された。

八幡様の近くにあった
家と畑

2006 年頃の様子

2015 年春に、図中央の古い民家は取り壊され姿を消した。トタン張りの物置が、悲しげな風情を漂わせていた。跡地に平成のモダンな家、アパートが建った。かくして、和良比の静かな村は一変した。図左の道を前方に進むと大きな坂道に出る。
図右手、木立の後方に八幡様の社がある。今残っているのは、八幡様の社と丈の低いお茶の生垣だけになってしまった。いずれも戦前からあったものだ。八幡様の境内には、樹齢 500 年近い松の大木があった。松くい虫にやられ、切り倒された。約半世紀前のことだ。



四街道十字路に通ずる
中三角踏切

2005 年頃の様子

JR 四街道駅北口から千葉方面に向かうと、まず和良比踏切が見えてくる。二番目が、図の中三角踏切だ。踏切を渡って奥に進むと、四街道十字路の近くに出る。道幅が狭いため、自動車は通れない。
正面のブルーのトタン張りの家や茶色のバラックは、1960 年代の建物だった。2017 年 5 月上旬に、総て姿を消した。現在、草の生い茂る更地になっている。以前、そこから縄文時代の貝塚が見つかっている。木立に隠れた左側の家も同時に取り壊されたが、こちらは大きなアパートが建設中で、活気に満ちている。

砂田呉服店

2004年頃の様子

JR四街道駅北口からイトーヨーカドーに至る大通りを進むと、元四街道警察署が見えてくる。その近くに、岩井酒店があった。この岩井酒店の倉庫を改造して、砂田呉服店が開店した。
それは、今から80年以上も昔のことだ。近年、お婆さんがひとりで店を仕切っていたが、亡くなったため閉店した。娘が嫁に行くとき、砂田呉服店で帯や着物を購入した市民も多く、その別れを惜しんだ。図左上の瓦屋根は岩井酒店の建物。呉服屋の店舗は、2008年7月上旬ついに取り壊され、駐車場になった。

稲荷神社近くのテーラー秋山

1997年頃の様子

2階建てのテーラー秋山は、稲荷神社の前を通るとすぐ気付いたものだ。戦後まもなく開店したという。店頭に置かれた木製の台に、いつも四季折々の美しい草花の鉢が飾られ、道行く市民の目を楽しませていた。
この店は2019年に取り壊された。大日に引っ越したという。ここで洋服を仕立てた市民も大勢いる。店の前の通りを奥に進むと、護国神社が見えてくる。何か心がほっこりする眺めだった。

リベラルミシンの家

2011 年頃の様子

四街道公民館の正門前にリベラルミシンの店があった。2 階建てのバラックで、長方形の大きな看板が目立った。2009 年頃開店し、2017 年春に閉店した。

年配の男性がミシンの修理を行い、ご婦人の方が水彩画や手芸品を手がけ、販売していた。大網地区の田園風景を描いた絵葉書を頂いたことがある。看板の右隅に「手作りの店 アトリエでんでん」の文字があった。

2019 年春にバラックは取り壊され、跡地は雑草の生い茂る更地になっている。

和良比本村の
懐かしい風景

1997年頃の様子

和良比本村の懐かしい風景。図右端にチラリと顔を覗かせている瓦屋根の家を過ぎると、大きな長屋門が見えてくる。台地の斜面が左手に広がり、この地点は大きな窪地にあたる。そこは畑になっていて、細長い建物は納屋。図の道を手前に進むと、十字路に出る。それを左方向に進めばお屋敷橋がある。

昼なお暗い和良比の大坂

2006年頃の様子

和良比本村に行く途中に、大坂と呼ばれる急な坂道がある。坂の両側は深い竹やぶに覆われ、昼間でも暗い。風が吹くとザワザワと不気味な音を立てて、竹が揺れた。今にも崖が崩れそうだった。事故の心配をした市は2016年春から護岸工事に着手した。2017年5月に完了。竹やぶが姿を消し、見違えるように明るくなった坂道が出現した。図手前の空き地に、次々と平成の家が建ち、人通りが絶えない。

秋たけなわの
四街道公民館前の松並木

2001年頃の様子

四街道公民館裏門の土手に沿って、立派な松並木があった。この松並木は、松くい虫にやられたため、2005年暮れにすべて伐採された。この松の幹にはV字型の鋭い切込みがあった。それは戦時中、航空燃料を得るため、松やにを採取した傷跡だ。石油の産出量が極端に乏しい日本では、そうまでしなければ、飛行機を飛ばすことができなかったのだ。悲しい戦争遺跡だ。この土手の内側に、野戦重砲兵第四連隊の将校集会所の建物があった。フランスの建築様式だという。取り壊した跡地に、四街道公民館が建てられた。
図奥のレンガ製の門柱は、野戦重砲兵第四連隊の営門だった。現在、愛国学園大学と附属四街道高等学校の正門になっている。

四街道一幅の狭い家、
仕立て屋さん「まるよし」

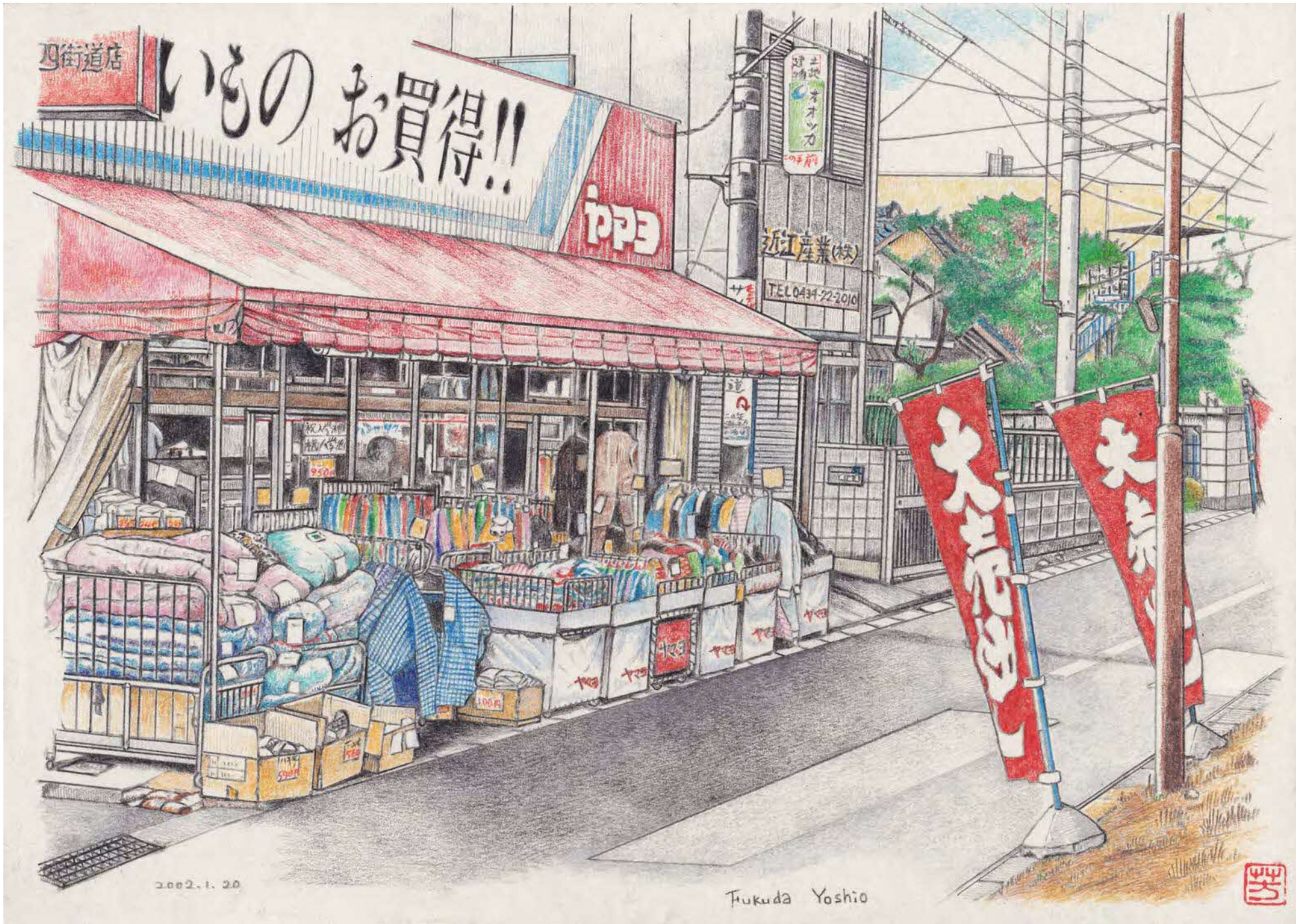
1998年頃の様子

「ラーメンハウス うさぎや」の向かい側に、仕立て屋さん「まるよし」の2階屋がある。ここで背広の丈を直したり、袖を縮めてもらったりしたものだ。まるよしの建物の幅は140センチメートル程で、四街道一幅の狭い家として有名だ。背後の畑に平成の家が何軒も建ち、周囲の風景は一変した。

総武本線のガードと
赤い靴流通センターの塔

2006年頃の様子

図中央をJR四街道駅から物井方面に向かう総武本線が通っている。その下側にガードがある。ガード左側高台に、「ラーメンハウス うさぎや」がある。四街道小学校の学芸会でのこと。「おい、うさぎやでラーメンを食べようぜ」という台詞に感激した店主が、出演した子どもたちに無料でラーメンを振る舞ったという。
うさぎやが四街道北口にあった頃の話だ。それは、今から70年ほど前になる。中央のガードは歩道。右側に車道がある。ガードの坂を自転車を押しながら進むのは大変だ。みのり町の靴流通センターの赤い広告塔は、2019年春に撤去された。ガードと赤い広告塔は、四街道では珍しい光景だった。



元警察署の並びにあった洋品店ヤマヨ

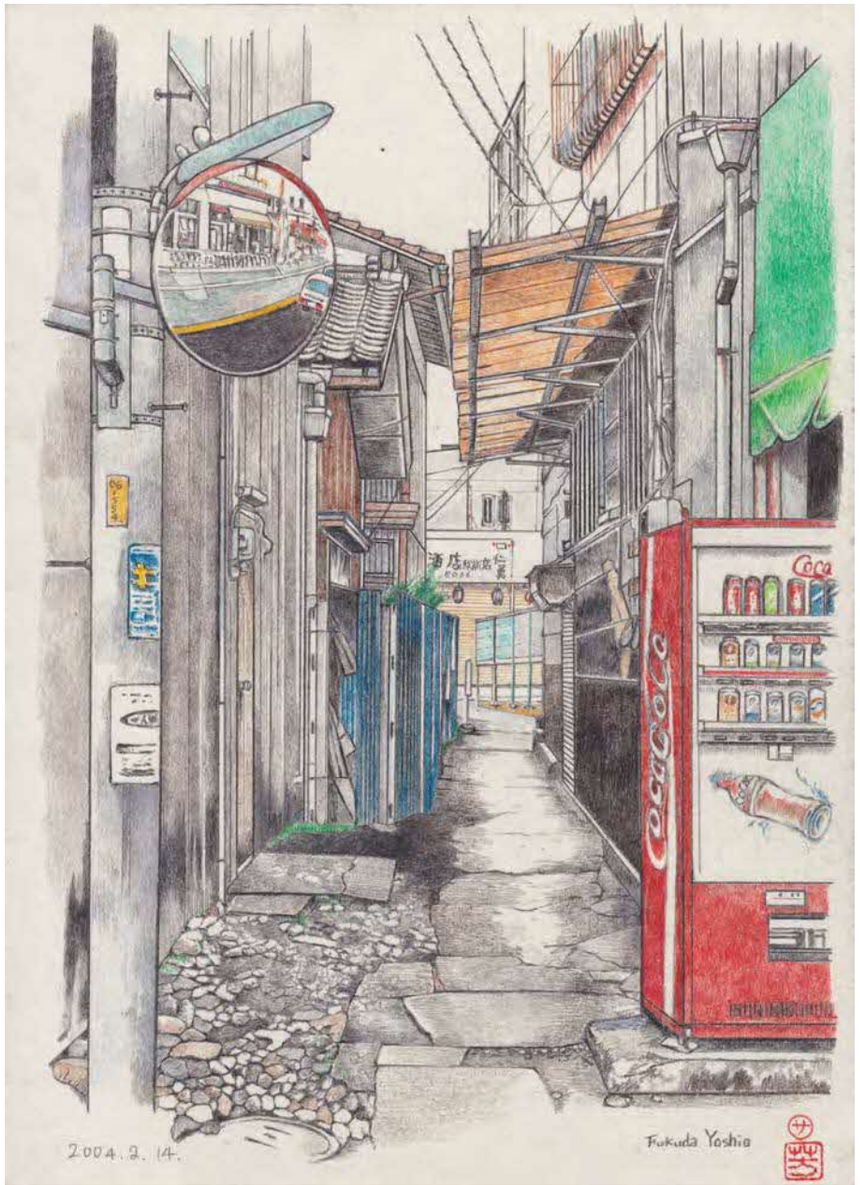
2002年頃の様子

JR四街道駅北口の大通りを、イトーヨーカドー方向に進むと、かつて警察の並びに、洋品店ヤマヨが見えてきたものだ。現在の四街道1丁目6番付近に当たる。

本店は市原にあり、図は四街道支店ということになる。店の前には赤い大売り出しの幟が幾本も立ち、賑やかだった。近所の奥さんたちが店員として働いていた。大型量販店の出現で売上が落ちたのか、2014年春頃閉店した。その後、学習塾になった。

そして、右側の近江産業の建物も、カワラ屋根の立派な須藤材木屋さんの家も今は無い。

このヤマヨの正面に、大きなサクラの古木があった。花の咲き具合を見て、四街道の開花宣言を行ったものだ。2000年に入って間もなく姿を消した。太い幹が腐ってきて、いつ倒れるか危険だと言われていた。



JR四街道駅南口に急ぐサラリーマンの通り道

1994年頃の様子

鹿渡県道踏切左側にある石山商店（八百屋さん）と、伊藤甲進堂（化粧品店）の間に、狭い路地がある。JR四街道駅南口に急ぐサラリーマンにとって、重要な通路だ。ミラーに、向かい側の石橋自転車店が映っている。
道幅がひどく狭いため、先客の自転車が通過するまで、降りて待つのがルール。多くの市民が利用するので、タワシで磨いたように、通路の石畳はピカピカになっている。

東日本大震災の傷痕

2011年頃の様子

2011年3月11日、東日本大震災が起こった。恐ろしい揺れに襲われたものの、四街道市内は大きな被害が無かった。しかし、JR四街道駅北口、鹿渡県道踏切際にあった日本料理店「しろがね」は、この地震で壁が崩れ、食器やテーブルが壊れ、再起不能に陥った。
地震から半年以上たっても、図のような有様で、瓦礫が散らばったままだ。その後、建物は取り壊され、跡地にコンビニが開店した。

昔、四街道小学校の児童が卒業記念に植えたサクラ

2001年頃の様子

JR四街道駅北口の千葉寄りに、和良比踏切がある。図はその付近の総武本線沿いにあったサクラを描いたものである。
それは今から約四半世紀前に、四街道小学校の生徒が卒業記念に植えたものだ。80歳を超えた村田元校長が、このサクラの絵を見て、目に涙を浮かべ「君、これだよ、このサクラは私が児童に植えさせたんだ」と大感激だった。
現在、切り倒されて無い。
春になると美しい花を咲かせ、夏には涼しい木陰を提供してくれたのに。残念なことだ。

日常こそ、ドラマチック

ドラマチック四街道プロジェクトは、
「日常こそ、ドラマチック」をテーマに、
四街道を舞台に繰り返される何気ないくらしを見つめ、
等身大の四街道を発信していくプロジェクトです。

これまでに、市内の森で様々な工夫を凝らして遊ぶ子どもや、
公民館などでいきいきと活動する高齢者、
想いをのせて働く方々に眼差しを向け、
発信をしてきました。

それは、決して「強い何か」を映したものではなく、
むしろ何の変哲もない郊外のまちの様子です。

しかし、あたり前の毎日だからこそ、
この先もずっと残していきたい大切な景色ではないでしょうか。

当プロジェクトは、未来に向けて
残していきたいくらしの様子にスポットライトをあて、
実直に映し出すという姿勢で取り組んでいます。

ドラマチック四街道プロジェクトの主な取り組み

映像
「ドラマチック四街道」

四街道で働く人や子育てをするお母さん、学校で過ごす子どもたちの様子、青春を謳歌する学生など、あたり前だけれど、これから先もずっと残していきたい日常風景を映像にまとめています。

写真集
「ドラマチック四街道」

2015年の秋から冬にかけて撮りためた四街道市の記録です。このまちで暮らしてきた先人と、今を生きる市民が、少し先の未来を想像しながら取り組んできた、まちづくりの道程を映し出します。

インタビュー
「まちのストーリー」

四街道のストーリーを紡ぐ、今日の暮らしを担う市民や団体の方へ行ったインタビューです。ホームページへの掲載や冊子の発行のほか、ダイジェスト映像を公開しています。

インタビュー
「まちの食卓」

市内の家庭の食卓とそれを囲む人々にスポットライトをあて、食卓に並ぶ料理のエピソードなどを交えながら、四街道での様々な暮らしぶりをご紹介しています。

みんなでカレンダー
プロジェクト

四街道に関わるすべての方が抱くまちへ想いを、日替わりカレンダー形式で発信していくプロジェクト。年度毎に冊子を制作。bccks（ブックス）にて受注販売も行っています。

リサーチプロジェクト

市民のみなさんと次世代に残していきたい四街道のモノ・コトを探求する試み。テーマを「人・活動」「生業」「歴史」の3つに絞り、リサーチの成果を冊子としてまとめています。

プロジェクトの詳しいご案内や最新情報はホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。
http://dramaticyotsukaido.com/

福田 芳生氏のプロフィール
1941年4月、四街道に生まれる。都内の医科大学で博士号を取得し、県衛生研究所に勤務する。動物の進化、種の多様性、河川の環境汚染と水棲生物について、研究を重ねる。動物の病理学・古生物学に関する専門書30冊以上を著す。その間、早稲田大学講師を兼務。
退職後、色鉛筆画家として活躍。現在に至る。

まちの記憶
色鉛筆で描いた四街道

絵・文　福田芳生

2020年12月25日発行

発行者
四街道市（政策推進課）
〒284-8555 千葉県四街道市鹿渡無番地
電話　043-421-2111（代表）
　　043-421-6162（担当課）

企画・編集　株式会社両見英世デザイン事務所

© Yotsukaido City